

表 令和7年5月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第35～52号	2日、5日、9日、12日 16時00分 14日 10時00分 14日～23日、26日、28日、30日 16時00分	南岳山頂火口で、5日まで噴火活動。12日から傾斜計及び伸縮計で山体膨張を示す変動を観測。15日未明から噴火活動。山体膨張は一部が解消されたものの、再び膨張に転じた。16日以降、爆発を含む活発な噴火活動が24日まで継続。噴煙、大きな噴石の状況。膨張は維持されている。火山ガス(二酸化硫黄)放出量は700～11200[t/日](現地調査2、20、22、28日)でやや多い～非常に多い。 GNSS連続観測で、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)を挟む基線で地下深部の膨張を示す長期の緩やかな伸びがみられる。始良カルデラ深部にマグマが蓄積した状態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられる。
		降灰予報(速報)	15日 11:50/ 16日 03:22, 06:17, 06:56/ 18日 10:20, 14:13, 19:10, 20:11/ 19日 08:11, 11:03, 12:50, 13:35, 14:07, 18:23, 19:54/ 20日 15:11, 17:22, 18:33/ 22日 12:54/ 23日 02:41, 12:00, 18:48, 19:12/ 30日 17:44, 21:21	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	15日 11:39, 12:15, 15:13, 21:22/ 16日 03:55, 04:54, 06:30, 07:06, 15:19, 16:57/ 18日 10:35, 14:24, 19:24, 20:28/ 19日 08:26, 11:17, 13:00, 13:51, 14:17, 18:38, 20:04/ 20日 15:24, 17:31, 18:42/ 22日 13:06/ 23日 02:52, 12:09, 18:58, 19:22/ 30日 17:54, 21:30	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第32～40号	2日、5日、7日、9日、12日、16日、19日、23日、26日 16時00分	火口直下の火山性地震は10月下旬頃から増減を繰り返し、前10日間の地震回数は非常に多いから多い状態。火山性微動が発生。新燃岳西側斜面の割れ目で30日午前に噴気を観測(2024年12月14日以来)。複数の傾斜計で22日～26日に北西上がりの変動を観測。現地調査(4月30日、7日、)で、地熱域の拡大や新たな発生を確認。GNSS連続観測では、11月頃から霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すわずかな伸びが認められる。引き続き火口から概ね3kmの範囲内に影響する噴火の可能性はある。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	27日 11時00分	4月下旬から5月上旬に火山性地震が非常に多くその後減少し、近傍の傾斜計にも特段の変化はない。火山活動に低下傾向が認められ、火口から2kmを超えて影響する噴火の可能性は低くなった。一方、GNSS連続観測で、付近の地下の膨張を示す伸びが認められ、火山性地震は依然として多い状態。大きな噴石が火口から概ね2kmまで、火砕流が概ね1kmまで達する噴火の可能性はある。
		解説情報 第41～42号	27日 11時10分 30日 16時00分	火口直下の火山性地震は10月下旬から増減を繰り返し、前10日間の地震回数は非常に多い状態。火山性微動はない。GNSS連続観測で11月頃から霧島山を挟む一部の基線で地下の膨張を示すわずかな伸びが認められる。引き続き大きな噴石が火口から概ね2km、火砕流が概ね1kmまで達する噴火の可能性はある。

令和7年5月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
岩手山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第18～22号	2日、9日、16日、23日、30日 16時00分	JAXAの衛星「だいち2号」「同4号」のデータの国土地理院による解析で、11月から4月にかけて大地獄谷周辺及び岩手山西部周辺に変動が見られ、ごく浅部の膨張と考えられる。傾斜計やひずみ計、GNSS連続観測で、2024年2月頃からの山体深部の膨張を示す変動は継続。黒倉山付近の微小な火山性地震は、やや多い状態から9日以降やや少ない状態。大地獄谷の地熱域が積雪前よりわずかに拡大。引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響する噴火の可能性がある。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第35～43号	2日、5日、9日、12日、16日、19日、23日、26日、30日 16時00分	火山性地震は2024年4月中旬以降増加した状態。同3月中旬からの山体西側の膨張を示す傾斜変動は5月以降は停滞。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は300～700[t/日]（4月30日、5月20日、29日）、2023年3月以前より多い。引き続き、火口から概ね2kmに影響する噴火の可能性がある。
御嶽山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第48～53号	2日、5日、9日、12日、16日、19日 16時00分	火山性地震は少なく火山性微動は観測されず。GNSS連続観測で12月頃からの一部の基線の伸びは2月頃から停滞。12月中旬以降、火山性地震の増加や、山頂方向が隆起する変動を伴う火山性微動が観測され、火山活動の高まりが認められる。地獄谷火口から概ね1km範囲に影響する噴火の可能性がある。
	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	噴火予報	20日 11時00分	12月以降、山頂付近で火山性地震が増加したが2月以降は少ない。火山活動は低下し、地獄谷火口から概ね1kmの範囲に影響する噴火の可能性は低くなった。
		解説情報 第54号	20日 11時10分	2月以降は火山性地震は少なく火山性微動は観測されていない。GNSS連続観測で12月頃からみられた膨張を示すと考えられる変化は2月頃から停滞。傾斜計では2月以降は火山活動とみられる変動は認められない。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第18～21号	5日、12日、19日、26日 16時00分	白色の噴煙と、夜間に時々高感度の監視カメラで火映を観測。火山性地震は少ない。火山性微動はない。GNSS連続観測で、山体の膨張を示す変化はない。長期的には熱活動や噴煙活動が高まった状態が続き、火口周辺に影響する噴火の可能性がある。
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第23～29号	2日、5日、9日、12日、16日、23日、30日 16時00分	主に古岳火口付近浅部で火山性地震が概ね多い状態。4月30日、5月13～15日の現地調査で地熱域の状況に変化なし。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は少ない。監視カメラ及び地殻変動観測では変化はない。山体の浅部でやや活発な地震活動が継続し、新岳及び古岳の火口周辺に影響する噴火の可能性がある。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第18～21号	5日、12日、19日、26日 16時00分	御岳火口で噴火活動継続。爆発、噴煙、火映の状況。大きな噴石の飛散。火山性地震は少ない。火山性微動はときどき発生。GNSS連続観測では、10月以降、島の西側やや深部でマグマ蓄積量増加を示唆するわずかな変動が認められる。長期に噴火活動が継続し御岳火口周辺では大きな噴石が飛散する可能性がある。

注1）表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2）岩手山、浅間山、御嶽山、霧島山（新燃岳）、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報（定時）を発表している。御嶽山では20日8時で終了した。